

MS&ADグループ サステナビリティ取組み ～水関連リスクとグリーンレジリエンス～

グッドプラティクス塾
2025年11月26日

MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス
サステナビリティ推進部 浦嶋裕子



MS&ADグループのマテリアリティ



Stockholm Resilience Centre "SDGs Wedding Cake" を元に制作

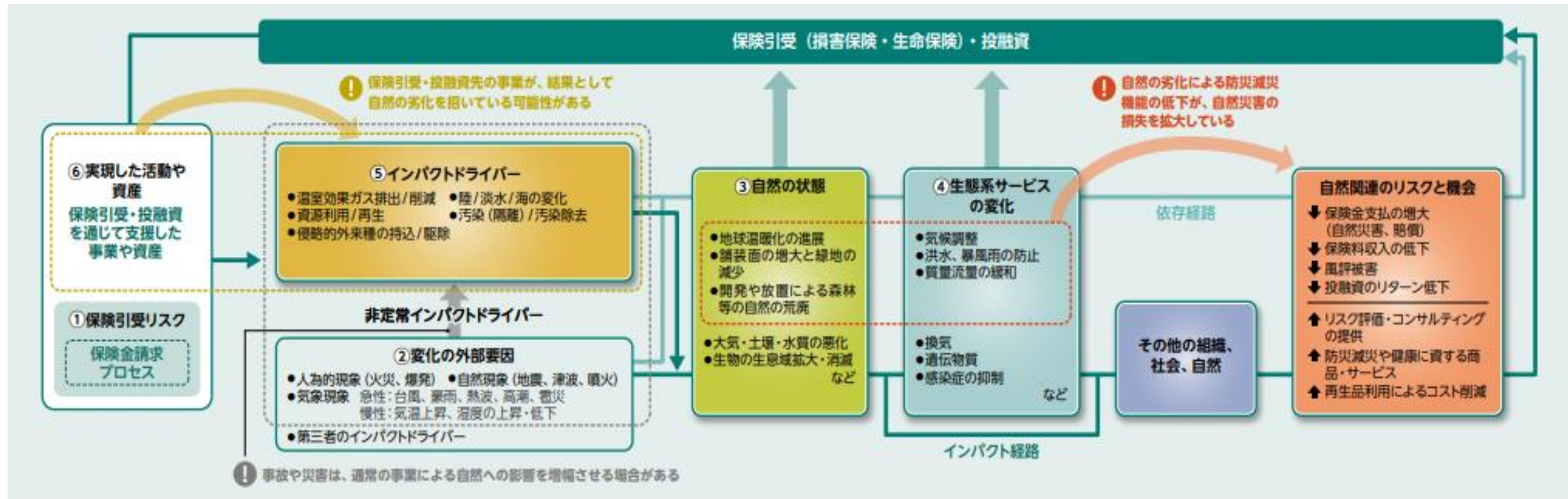
重点課題	主な取組
 多様な人々の幸福	Well-being <ul style="list-style-type: none">お客さまのWell-being人権尊重の推進社員のWell-being
 安心・安全な社会	Resilience <ul style="list-style-type: none">新たなリスクへの対応防災・減災レジリエントで包摂的な地域社会づくり【地方創生】
 地球環境との共生	Planetary Health <ul style="list-style-type: none">気候変動への対応自然資本の持続可能性向上

損害保険は、自然と調和の取れた持続可能な社会・経済の上に成り立ってきたビジネスであるからこそ、気候変動、自然資本・生物多様性への対応は損害保険の持続可能性を左右する最優先課題と考えています。

TCFD/TNFDレポート “グリーンレジリエンスレポート”



気候・自然への「依存とインパクトの経路図」と対応した取組み



当社グループにとっての気候・自然関連の課題

火災保険について

【住宅物件事故種別支払統計】



【水災による保険金の支払状況(5カ年平均・住宅物件)】



出典：火災保険 住宅物件 事故種別支払統計表より(損害保険料率算出機構)

水災害リスク

=

外力

×

暴露

×

脆弱性

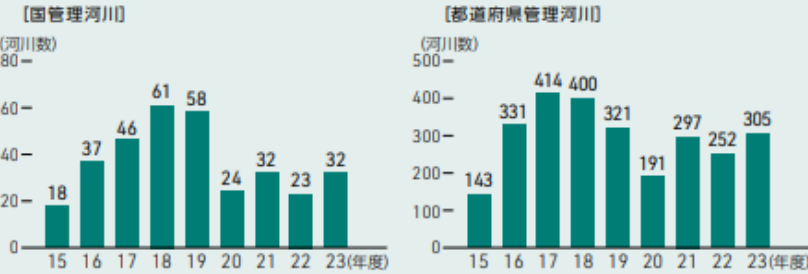
水災害の発生要因

人口・資産等の集積

無防備・災害弱者

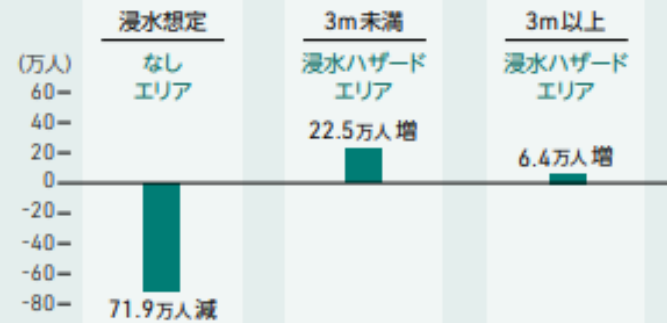
気候変動シナリオ	降雨量	流量	洪水発生頻度
2℃上昇時	約1.1倍	約1.2倍	約2倍
4℃上昇時	約1.3倍	約1.4倍	約4倍

氾濫危険水位を超過した河川数



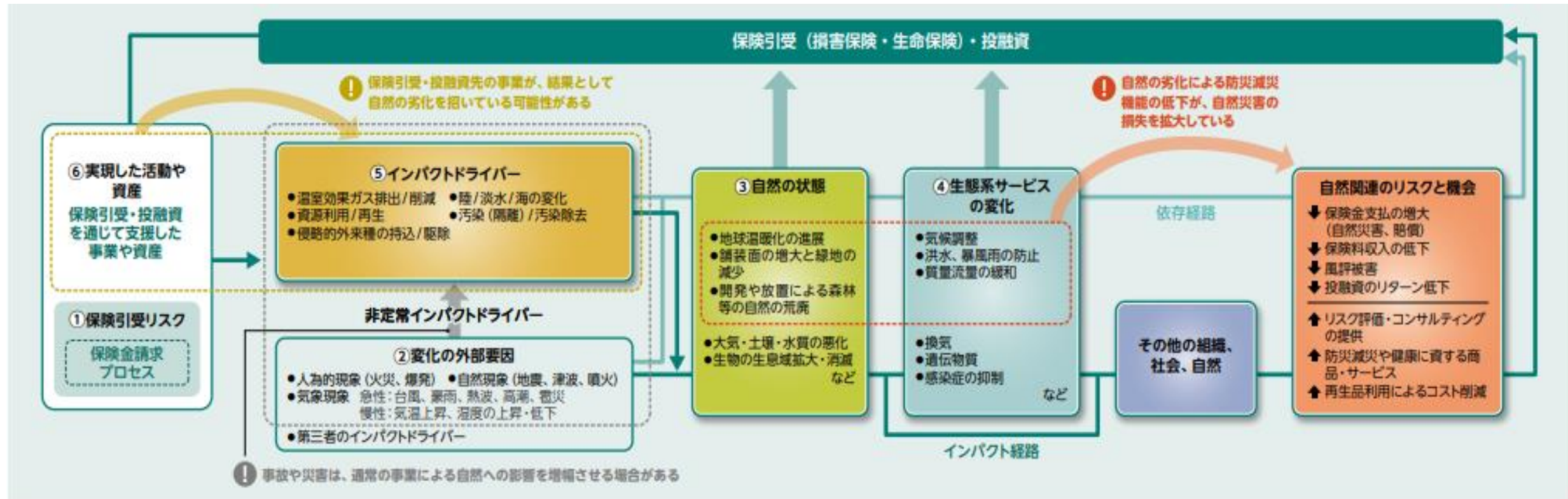
出典：国土交通省「気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会「気候変動を踏まえた治水計画のあり方提言～参考資料～」(令和3年4月改訂)

都市計画区域の浸水ハザード別人口増減(2010年～2020年)



出典：野澤千絵、上田聖也、柿沼太貴「最大想定規模の浸水想定区域における土地利用規制別の人口推移と居住誘導に関する研究」公益社団法人日本都市計画学会 都市計画報告集 No.21,2023年2月

気候・自然への「依存とインパクトの経路図」と対応した取組み



● リスク・機会を踏まえた主な取組み

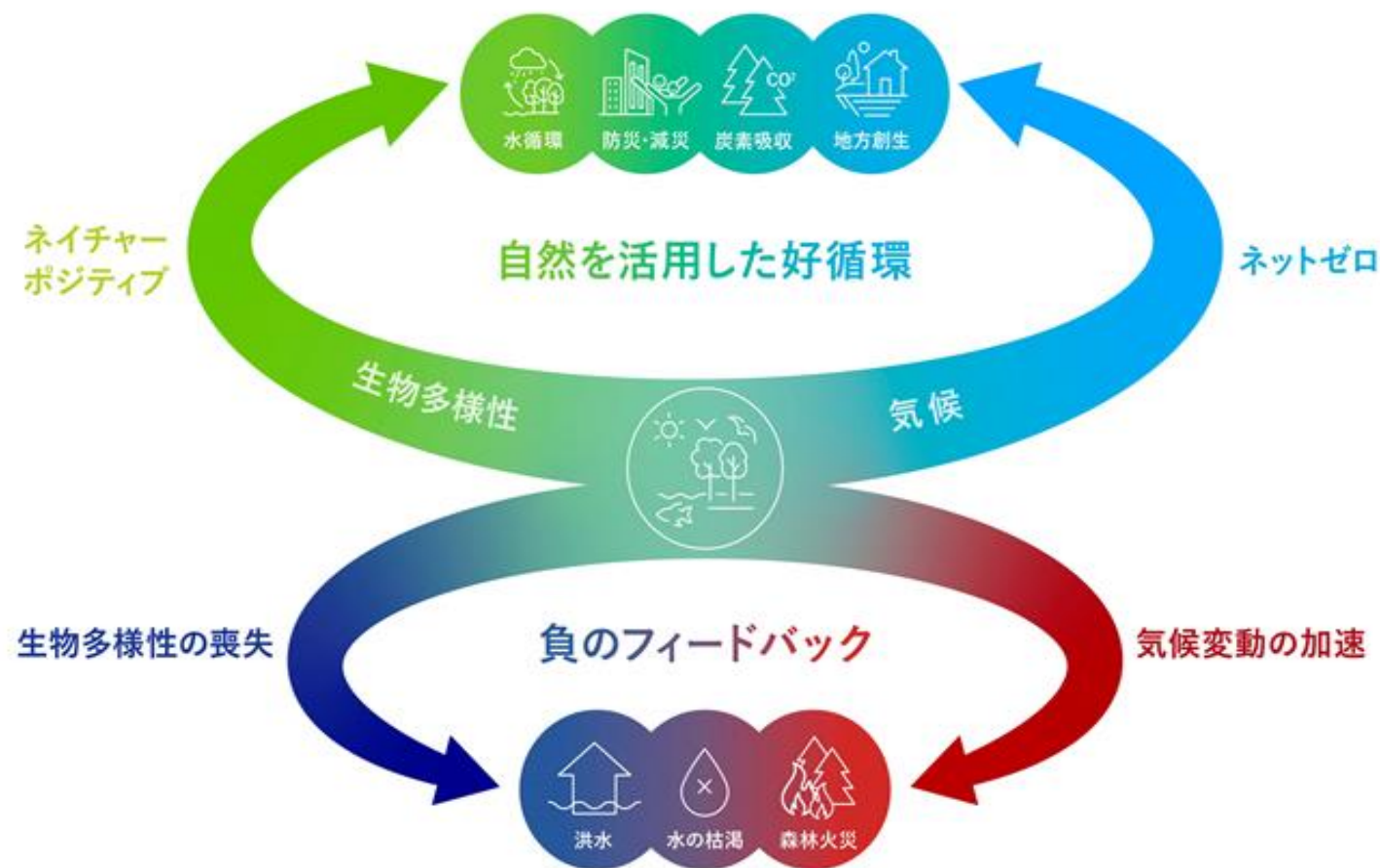
自然災害の増加に対する
提供価値向上

グリーンレジリエンスに
向けた協働と基盤づくり

お客さまの気候・自然に係る
リスク評価と対話

ネットゼロ、ネイチャーポジティブ、
サーキュラーエコノミー
を支える保険商品・サービスの提供

グリーンレジリエンスとは



グリーンレジリエンスに向けた協働と基盤づくり



大学機関
地域の事業者
NPO 等

JST COI-NEXT事業

[SIPスマートインフラ/環境省推進費]

球磨川流域 緑の流域治水プロジェクト



- ・治水や湧水保全に向けた流域の水循環の健全化・ネイチャーポジティブを後押し
- ・産官学と地域社会が一体となったコレクティブアクション

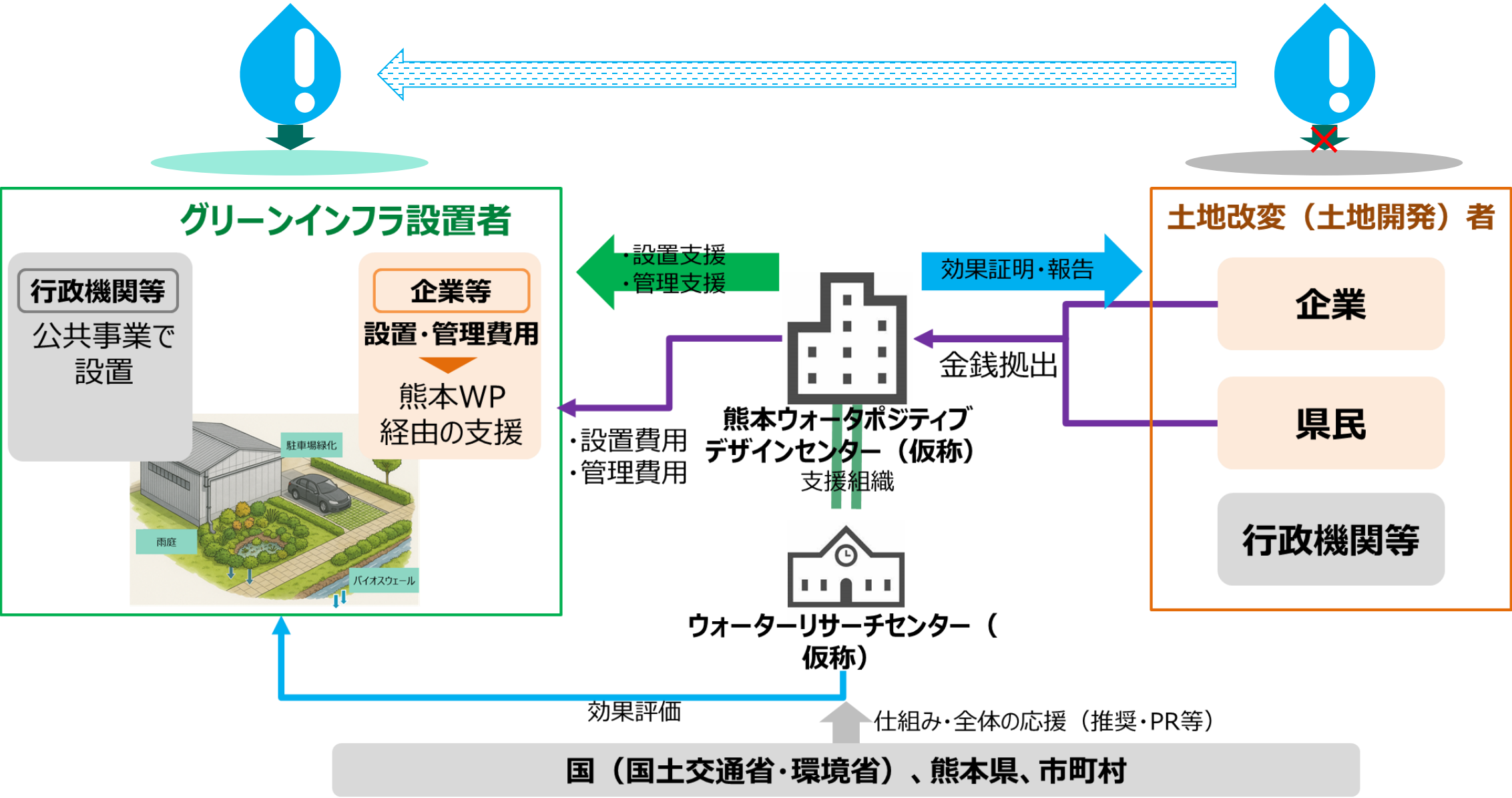
宮城県南三陸町 いのちめぐるまちプロジェクト



千葉県印旛沼流域 里山と水循環プロジェクト



熊本ウォーターポジティブアクション





お客さまの水関連リスクへの対応を支援する

お客さまの業種ごとの水の依存とインパクト

GICS セクター コード	GICSセクター名	供給サービス		調整・維持サービス											文化的 サービス
		水資源	その他資源	汚染浄化	騒音減衰	感覚的影響 の緩和（騒音を除く）	水坑調整	気候調整	洪水・ 暴風雨緩和	土壌・堆積物 保持	土質調整	花粉媒介	生息地の脆弱 体数と生息 環境の維持	生物学的制 制	
10	エネルギー	H	L	VH	VL	L	H	H	VH	H	-	-	-	VL	-
15	素材	H	L	VH	VL	L	H	H	VH	H	-	-	-	VL	VH
20	資本財・サービス	H	M	VH	VL	VL	H	M	VH	H	-	L	ND	VL	VH
25	一般消費財・サービス	VH	VH	VH	M	M	VH	VH	VH	VH	VH	VH	VH	H	VH
30	生活必需品	VH	VH	VH	VL	VL	VH	VH	VH	VH	VH	VH	VH	H	VH
35	ヘルスケア	H	H	VH	VL	VL	H	L	H	M	-	L	-	L	VH
40	金融	VL	ND	ND	-	-	L	L	M	L	-	-	-	ND	VH
45	情報技術	M	-	M	VL	VL	M	L	M	L	-	-	-	VL	-
50	コミュニケーション・サービス	L	ND	L	VL	VL	L	L	M	M	-	-	-	VL	VH
55	公益事業	VH	H	M	M	-	VH	VH	VH	VH	-	-	-	-	-
60	不動産	M	VL	M	VL	VL	M	M	VH	H	-	-	-	ND	VH

お客さまの業種ごとの水の依存とインパクト

GICS セクター コード	GICSセクター名	土地・淡水域・海洋利用変化			気候変動	資源利用/回復		汚染/汚染除去				侵略的 外来種
		土地利用 変化	淡水域利用 変化	海洋利用 変化	GHG排出	水資源の 使用	その他の 資源 抽出	固形廃棄物 の発生・排出	GHG以外の 大気汚染 物質の排出	土壌・水質 汚染 物質の排出	かく乱	外来種の 導入
10	エネルギー	M	VH	VH	VH	M	H	H	H	VH	VH	L
15	素材	M	VH	VH	H	H	VH	VH	H	VH	VH	L
20	資本財・サービス	M	M	M	H	M	VL	M	VH	VH	VH	VH
25	一般消費財・サービス	VH	H	H	H	VH	VH	VH	H	VH	VH	VH
30	生活必需品	VH	H	H	H	VH	VH	VH	H	VH	VH	VH
35	ヘルスケア	M	ND	VL	M	M	VL	M	H	M	M	L
40	金融	M	-	-	L	L	-	VL	VL	L	L	L
45	情報技術	M	-	VL	M	M	-	L	H	H	M	ND
50	コミュニケーション・サービス	M	L	M	L	L	-	L	L	L	M	-
55	公益事業	H	H	M	VH	M	M	H	VH	VH	VH	-
60	不動産	L	M	M	H	L	-	M	L	H	VH	L

水資源関連のリスク分析支援～MS&ADインターリスク総研

■地圏環境テクノロジーが有するグローバル地域の水循環を可視化可能なGETFLOWSを用いて取水や排水の依存・インパクトを分析します

1 貴社の優先拠点を対象として拠点が位置する流域を特定します

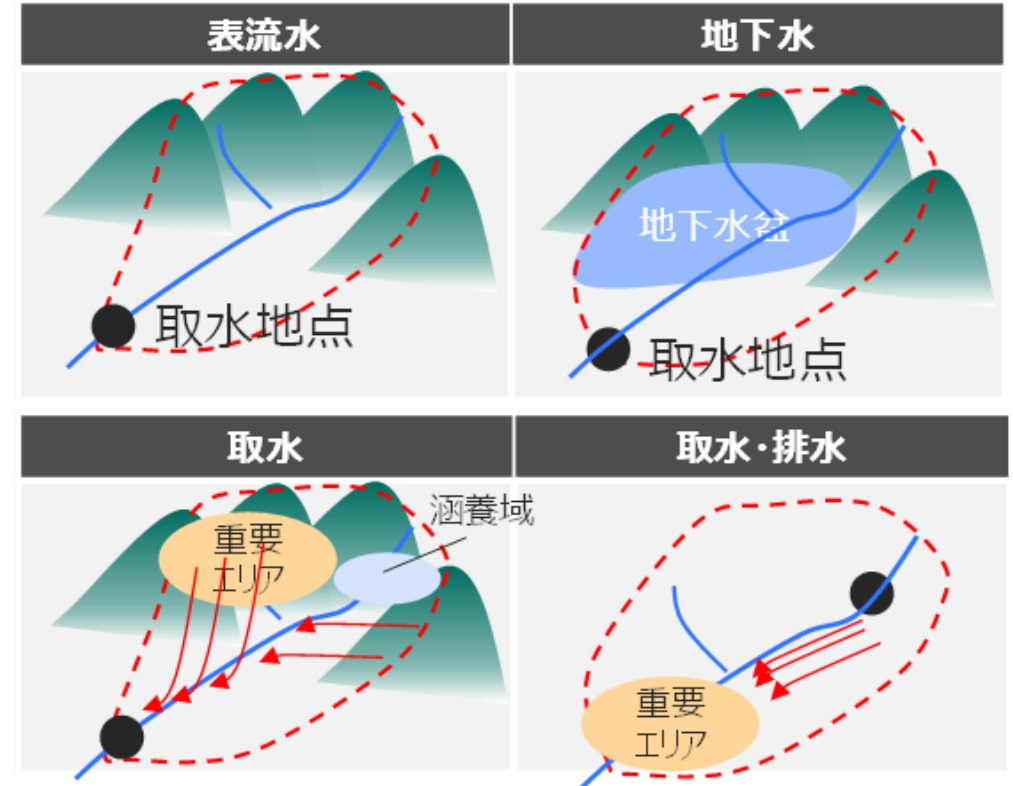
- 利用している水源（表流水や地下水）や排水先を踏まえて影響評価に適切な流域界を設定します

2 取水・排水が依存・インパクトを与える領域を評価します

- 流線分析により貴社の取水が依存する重要エリアや涵養域、インパクトを与えている下流の重要エリアなどを評価します

3 取水・排水が依存・インパクトの定量評価

- ご要望に応じて涵養域からの涵養量などの定量評価も実施可能です



依存・インパクト評価の一例

取水に対する依存・インパクト

- ✓ 流域内の水ストレスおよび自拠点、原材料生産地（農地など）の水利用が占める割合：依存
- ✓ 自社取水に占める重要エリアからの水資源の割合：依存
- ✓ 取水による地下水低下の影響範囲・程度：影響

排水によるインパクト

- ✓ 自社の排水の流域への影響度（範囲・濃度）：影響
- ✓ 重要エリアへの排水の影響（範囲・濃度）：影響

施肥によるインパクト

- ✓ 施肥による河川水質への影響評価（濃度・範囲）：影響
- ✓ 施肥による地下水水質への影響評価（濃度・範囲）：影響

MS&AD

MS&ADホールディングス

MS & ADホールディングス

104-0033

東京都中央区新川2丁目27番2号

東京住友ツインビルディング西館

サステナビリティ推進部・推進グループ

TEL: 03-5117-0201 FAX: 03-5117-0602
